学校番号	3021

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理Ａ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「新版 高等学校 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ」（第一学習社） 「新詳高等地図」（帝国書院）						
副教材等	新詳地理資料 COMPLETE2019」（帝国書院）、「統計要覧 2020 年版」（二宮書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地理は、地図に記載できるものすべてを学習する学問である。地球そのものの様子や、我々が生きている地球で今何が起きているのか、今の世界はどのようにしてつくられているのか、といったことを、地図や統計などから読み解く学問である。それを踏まえると、やはり地図帳や統計表などを大いに活用して学習することが望ましい。

「あれを何時間しなさい」「この本の何ページから何ページまでを読んでこの部分に線を引いて覚えなさい」などといった、決められたことをただ行う受動的な学習ではなく、自分で何をすべきか、何を読むべきかを考えて判断し、積極的に学習してもらいたい。地理を通して、ただ知識を詰め込んで終わりではなく、なぜそうなるのかという疑問を常に持ち考えてもらいたい。この科目を通して世界に通じる教養を身につけていくことを期待する。

２　学習の到達目標

- どこに、どのようなものが、どのように広がっていて、なぜそのようにみられるのか、諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりで捉える力を養う。
- 現代世界の地理的事象を、日常生活と関連付けながら考察する力を培う。
- 歴史的背景などを踏まえながら、現代世界の地理的諸課題を考察し、国際社会に主体的に生きる市民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の自然環境に関する諸事象の分布や人間生活とのつながりに関する考察を基に、現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる市民としての責任を果たそうとする。	世界の自然環境について、分布や人間生活との関わりや現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的･多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	自然環境の分布と人間生活との関わり、および現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	定期考査 学習状況の観察 ワークシート	定期考査 学習状況の観察 ワークシート	定期考査 学習状況の観察 ワークシート	定期考査 学習状況の観察 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	人々の生活と気候	①気候の影響を受ける私たちの生活 ②ケッペンの気候区分 ③熱帯の気候と人々の生活 ④乾燥帯の気候と人々の生活 ⑤温帯の気候と人々の生活 ⑥亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活	○ ○	 ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	a:世界の気候について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:世界の気候と人間生活との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:収集した情報を基に、世界の気候について、図にまとめたりして適切に表現している。 d:世界の気候の分布や成因、人間生活との関わりについて理解し、その知識を身につけている。	定期考査 学習状況の観察 ワークシート
	人々の生活と産業	①生活を支える世界の農業 ②生活を支える世界の工業	○ ○	○ 	 ○	○ 	a:世界の産業について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:世界の産業と自然環境との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:図表やグラフなどの諸資料から、世界の産業に関する有用な情報を適切に読み取っている。 d:世界の産業について理解し、その知識を身につけている。	定期考査 学習状況の観察 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。